

個別共同研究 2

関東大震災後の都市復興過程と そのデータベース化、並びに資料収集

はじめに

本研究班の目的は、21 世紀 COE プログラムでの研究課題「環境に刻印された人間の諸活動」で対象とした、関東大震災の被害と応急対応についての研究および「関東大震災・地図と写真のデータベース」の成果を発展・継承させるべく、新たに震災後の都市復興過程に焦点をあて、そのデータベース化と関連資料の収集を行うことである。

以上の課題を追及するために、災害史、都市計画、近現代史の 3 名の研究者からなる学際的な研究班を構成した。研究班代表として災害史を専攻する北原糸子が企画全体を統括し、各分野の担当者が行う調査・研究を調整、統合化しつつ、研究を推進した。都市計画を専攻する田中傑（2008 年度）、川西崇行（2009、2010 年度）は、東京市における復興計画の展開過程（特に区画整理方式による街区の景観変容）についての調査・研究を担当し、地図データベース上にその成果を反映させる分野を担当した。また、近現代史を専攻する高野宏康（2008～2010 年度）は、震災関連の資料調査・収集（東京都慰霊堂、復興記念館など）および、それらの分析から、震災後の慰霊・復興の変容過程を都市の変容過程を実証的に明らかにする研究を担当した。

各年度の研究成果は以下のとおりである。

活動内容

○2008 年度（研究班構成：北原糸子、田中傑、高野宏康）

1. 資料調査

①三井文庫

関東大震災後に三井家が建設したバラックについての資料調査を行った。避難者がバラックから退去する際に、三井家に対して送った感謝状およびバラック周辺図が含まれている資料（「大正震災今井町邸内バラック避難者感謝状」）の存在を確認することができ、それらをデジタルカメラで撮影した。

②東京都公文書館

関東大震災後の帝都復興事業の一環として実施された土地区画整理についての図面（マイクロフィルム）および関連資料の調査を実施した。研究班に関連する図面については複写した。

③東京都慰霊堂収蔵庫

東京都慰霊堂の収蔵庫に保管されている関東大震災関係資料の調査を実施した。収蔵庫内の資料

は1990年代に民間の業者によってポリケースに収納されていたが、内容、数量などの調査が不十分であったため、改めて整理・撮影を行い、資料リストを作成した。資料は数千点以上にのぼるため、本年度は、ポリケースの各種帳簿類、書籍、雑誌、絵画、ポスター、避難者カードなどを調査し、展示パネルなどの大型資料は対象外とした。

2. 公開研究会

①「江戸学とビジュアルカルチャー——異文化・美術部・歴史——」

日時：2008年11月22日（土）13：30～16：00

会場：神奈川大学横浜キャンパス 23号館 204会議室

講師：タイモン・スクリーチ（ロンドン大学アジア・アフリカ研究院 教授）

コメンテーター：出光佐千子（出光美術館 学芸員）

司会：北原糸子（非文字資料研究センター 研究員）

【内容】

「東京」以前の「江戸」から、都市のあり方を掘り下げて考察するために、歴史学と美術史の学際的なセッションにより、江戸期の絵画を非文字資料として位置づけ、歴史や社会を読み解く方法論について検討した。スクリーチ氏は、これまでの江戸学には、宗教心、町人文化、鎖国についての3つの誤解があることを指摘した上で、具体例として、ヴェサリウスと円山応挙の二つの骸骨図などの比較検討から、キリスト教的な考えに基づく描き方と、仏教的な表現の差異と共通点に着目し、江戸について再検討する必要があることを主張した。出光氏は、スクリーチ氏の方法論について言及し、美術作品だけに注目しがちな従来の美術史に対し、作品を資料的に用いることで社会現象を読み解く方法論を開拓する必要があることを指摘した。

②「震災復興と文化変容——関東大震災後の横浜・東京——」

日時：2009年3月14日（土）10：00～16：20

会場：横浜ランドマークタワー 25階 2501大会議室

基調講演：西村幸夫（東京大学先端科学技術研究センター 教授）

「震災復興の都市計画とその現代的意義」

原武史（明治学院大学国際学部 教授）

「震災と天皇・皇室」

報告者：真野洋介（東京工業大学大学院社会理工学研究科 准教授）

「関東大震災後の避難行動と市街地形成」

水沼淑子（関東学院大学人間環境学部 教授）

「横浜市営住宅事業にみる震災復興」

田中傑（非文字資料研究センター 客員研究員）

「関東大震災後のバラック——再建のプロセスと法規との関係——」

寺寄弘康（神奈川県立歴史博物館 専門学芸員）

「横浜の震災復興博覧会」

北原糸子（非文字資料研究センター 研究員）

「震災前後——町内会の変貌——」

高野宏康（非文字資料研究センター 研究協力者）

「東京都慰霊堂保管・関東大震災関係資料リストについて」

【内容】

都市計画、建築史および歴史学の学際的なセッションにより、関東大震災後の復興過程における文化変容について、横浜と東京の比較検討を行った。西村氏は、震災復興の都市計画では、道路や水道といった基本的なインフラ整備が実施され、現在の東京の骨格がこの時に造られたことを指摘した。原氏は、震災後、宮城前広場が避難民に開放されたが、後に排除されたことから、震災前後の空間変容について指摘した。真野氏は、震災後の横浜市の避難所や仮設住宅などの整備過程と避難民の移動によってもたらされた市街地構造の変化について述べた。水沼氏は、横浜市の市営住宅事業の震災前後の変化について検討し、震災後、横浜市は居留地から共同住宅都市へと変容していったことを指摘した。田中氏は、バラックの再建プロセスを法令との関連から考察し、バラックがこれらの要素との関連により多面的な性格を持っていたことを指摘した。寺寄氏は、復興記念横浜大博覧会（1935年）を対象に横浜の震災復興を文化の側面から検討し、展示館の多様さ、入場者数が圧倒的に多かったこと、様々なメディアによって大衆の感覚に訴える宣伝文化の博覧会であったことなどを指摘した。北原は、震災前後の町内会について、三井文庫所蔵資料を分析することで、町内会がバラック管理に果たした役割が三井家に評価された事実などから、町内会の持つ多面的な役割を指摘した。高野は、東京都慰霊堂保管・関東大震災関係資料について紹介を行い、資料の持つ性格、関東大震災の慰霊・復興における意義について説明した。

以上により、従来、個別に被害や復興が説明されがちであった東京と横浜を比較検討したことで、都市の性格が復興に違いをもたらしたことが明らかになった。

3. 研究報告 ※『年報 非文字資料研究』第5号（2009年3月）参照。

- ①北原糸子「関東大震災罹災者バラックとその入居者について」（論文）
- ②田中傑「関東大震災後の罹災者バラックと三井諸会社による活動の位置づけ」（論文）
- ③高野宏康「東京都慰霊堂収蔵庫保管・関東大震災関係資料について」（調査報告）

○2009年度（研究班構成：北原糸子、川西崇行、高野宏康）

1. 資料調査

①国立歴史民俗博物館

東京都慰霊堂・復興記念館から国立歴史民俗博物館が借り出し中の関東大震災関係資料の確認および撮影を行った。また、昨年度の東京都慰霊堂資料調査時に発見した関東大震災絵巻（萱原黄丘「東都大震災過眼録」）と同じ作者による同主題の画帖（国立歴史民俗博物館所蔵）の比較検討を行った。

②東京都慰霊堂

東京都慰霊堂で年2回開催されている慰霊法要の参与調査を実施し、関東大震災の慰霊の現在のあり方について検討した。また、この慰霊法要の特徴である「震災」と「戦災」の慰霊の融合の様相について調査・記録を行った。デジタルカメラおよびハンディカムで画像・映像記録を撮影した。前年度に引き続き、東京都慰霊堂収蔵庫の資料調査を実施した。今回は、帝都復興展覧会の展示パネルの調査・撮影を行い、デジタル・データ化した。また、復興記念館に展示中の同展覧会の展示パネルについても同様の作業を実施した。

2. データベース

21世紀COEプログラム時に作成した「関東大震災 地図と写真のデータベース」に、震災復興過程の諸データ（復興小学校、復興公園、復興街路、バラックなど）を追加し、データベースを拡充するための基礎データ作成作業を行った。まず、①基図を都市計画変更後の昭和5～7年東京地形図改訂とし、復興過程のデータとして、②復興小学校および復興公園の関連資料、基礎データを収集した。さらに現地調査を行い、現状写真を撮影し、周辺環境の状況を確認した。

3. 公開研究会

①「震災復興と文化変容——モダン文化と震災の記憶——」

日 時：2009年7月18日（土）14：00～17：00

会 場：神奈川大学横浜キャンパス1号館308-1会議室

開 会 挨拶：大里浩秋（非文字資料研究センター 研究員）

パネリスト：千葉真智子（岡崎美術博物館 学芸員）

「関東大震災後の商業美術と都市の風景」

内田青蔵（神奈川大学工学部 教授）

「モダン建築の出現——RC造アパートメントハウスを中心に——」

高野宏康（非文字資料研究センター 研究協力者）

「復興記念館の誕生——震災の記憶とゆくえ——」

ディスカッションコーディネーター

：川西崇行（非文字資料研究センター 研究協力者）

司 会 進 行：北原糸子（非文字資料研究センター 研究員）

閉 会 挨拶

【内容】

美術史、建築史および歴史学の学際的なセッションにより、関東大震災後の復興過程における文化変容と震災の「記憶」の関係について検討を行った。千葉氏は、震災後から昭和初期に活動した今和次郎のバラック装飾社や、ポスターやショーウィンドウ装飾などの商業美術が広がり、都市の風景を一変させたことを指摘した。内田氏は、震災後に急速に普及した同潤会の共同住宅などRC造アパートメントハウスについて、震災前から技術的・制度的に登場する背景があり、震災は社会全体に普及していく契機となったのではないかと指摘した。高野氏は、震災後の慰霊・展示について、「震災記念堂」と「復興記念館」の成立過程をたどることで、「震災の記憶」

と当時の社会意識の関係性を指摘した。ディスカッションでは、震災後に展開した商業美術、モダン住宅における震災前後の影響関係、そして震災復興記念館の成立過程および展示に表象された復興の記憶のあり方を比較することで、モダン文化の諸相を1920—30年代の時代状況の中に位置付け直し、その意義を検討した。

②「よみがえる都市景観——震災復興期の都市美運動——」

日 時：2009年10月31日（土）14：00～17：00

会 場：神奈川大学横浜キャンパス 23号館 203教室

開 会 挨拶：福田アジオ（非文字資料研究センター センター長）

趣 旨 説 明：川西崇行（非文字資料研究センター 研究協力者）

パネリスト：川西崇行（非文字資料研究センター 研究協力者）

「帝都復興と「都市美」運動——震災後の本建築と景観の再整備——」

鈴木貴宇（早稲田大学オープン教育センター 助教）

「1930年代の銀座における巴里への憧憬——雑誌『あみ・ど・ぱり』と巴里会」

佐藤洋一（早稲田大学芸術学校 空間映像科 客員准教授）

「廃墟からの戦後復興——空襲・接收・復興——」

司会進行：高野宏康（非文字資料研究センター 研究協力者）

【内容】

「帝都復興」事業に並行して民間からおこった「都市美」運動が残した遺産をめぐって、都市計画、文学、都市形成史の視点から検討を行った。川西氏は、「都市美」的発想の原点には後藤新平の帝都復興事業があるとし、それを継承した「都市美協会」は震災復興期に大きな成果をあげたが、現在では「都市美」という言葉も発想も忘却されていることを強調した。鈴木氏は、「都市美」運動と関連が深い銀座の巴里会の人々の「巴里」への憧憬に込められた都市のあり方について、機関紙『あみ・ど・ぱり』等の分析により、「みゆき通り美化運動」などの実践的な展開の背景には西欧の近代都市を超越する「大東亜」の「帝都」建設をもくろむ時代の言説とリンクする危さがあったことなどを指摘した。佐藤氏は、震災後に形成された東京の景観は、戦争と戦後の占領期をへることで、どう変容し、再び復興を遂げていったのかという問題提起を行い、東京のいくつかの場所を題材に、写真や映像を多数使用して、戦時期から戦後にかけての景観変容について説明した。ディスカッションでは、「都市美」との関連から、「美観論争」の評価、保存運動について、報告では言及されなかった問題に踏み込んで議論が行われた。また、佐藤氏は、都市計画や都市制度史ではすくいきれない個人の記憶を追体験するために写真や映像分析の方法論について問題提起を行った。

4. 研究報告 ※『年報 非文字資料研究』第6号（2010年3月）掲載。

①北原糸子「描かれた関東大震災——絵巻・版画・素描——」（論文）

②高野宏康『『震災の記憶』の変遷と展示——東京都慰霊堂および復興記念館所蔵・関東大震災関係資料を中心に——』（論文）

5. その他

①「東京都慰霊堂保管・関東大震災関係資料の整理・保存・データベース化推進プロジェクト」東京都慰霊堂収蔵庫保管・関東大震災関係資料については、朝日新聞文化財団の文化財保護助成事業に採択されたことにより、資料調査の一部を同助成事業の一環として実施した。

②これまでの調査・研究成果について、関連シンポジウム「災害の経験を“伝える”——今に継承される関東大震災と阪神・淡路大震災の〈記憶〉——」（於：人と防災未来センター，神戸，12月18日）で報告を行った（北原糸子「資料が語る関東大震災——86年の時を超えて——」，高野宏康「関東大震災の慰霊と展示——東京都慰霊堂と復興記念館——」）。

○2010年度（研究班構成：北原糸子，川西崇行，高野宏康）

1. 資料調査

①東京都慰霊堂

特別展「関東大震災を描く——絵巻・漫画・子どもの絵——」の展示資料のうち、東京都慰霊堂収蔵庫に保管されているものについて、調査・撮影を実施した（小学生の絵など）。これまで未調査であった、震災記念物・図表類・図面などの調査・撮影を実施した。調査成果報告会に関連する資料の調査を行った（震災記念物など）。慰霊法要について、参与調査および写真・映像記録の撮影を実施した。

②漫画資料室 MORI

特別展および公開研究会の準備のため、片倉義夫氏所蔵の雑誌・新聞掲載の漫画類の調査を実施し、必要なものについてはデジタルカメラで撮影した。

③東京都現代美術館

特別展および公開研究会の準備のため、柳瀬正夢の震災関連スケッチブック（東京都現代美術館，柳瀬文庫所蔵）の調査を実施し、デジタルカメラで撮影した。

④番組小学校（京都市内）

関東大震災後の都市復興過程で建設された復興小学校の比較研究対象として、京都の番組小学校の災害対応についての現地調査・資料調査を実施した。

⑤丹後震災記念館（京都府京丹後市）

1927（昭和2）年に発生した北丹後地震を記念して建設された丹後震災記念館について、建物の現状、絵画などの資料調査，および周辺地域の現地調査を実施し，東京都慰霊堂・復興記念館と比較検討した。

2. 公開研究会：「関東大震災を描く——絵巻・漫画・子どもの絵——」

日 時：2010年10月30日（土）10：30～16：30

会 場：神奈川大学横浜キャンパス 23号館 203教室

開 会 挨拶：橘川俊忠（非文字資料研究センター 副センター長）

報 告：高野宏康（非文字資料研究センター 研究協力者）

「震災絵巻『発見』の経緯と東京都慰霊堂収蔵庫の資料」

北原糸子（非文字資料研究センター研究員）

「萱原白洞の『東都大震災過眼録』について」

パネリスト：井出孫六（作家）

「権の画家 柳瀬正夢」

片倉義夫（漫画資料室 MORI 主宰）

「画家・漫画家のみた関東大震災——竹久夢二・麻生豊・宮武外骨——」

新井勝紘（専修大学 教授）

「子どものみた関東大震災——子どもや画家の描いた絵画から何を読みとるか——」

及部克人（武蔵野美術大学 名誉教授）

「阪神・淡路大震災共同布絵づくり」

司 会：北原糸子（非文字資料研究センター 研究員）

【内容】

まず調査報告として、高野が「震災絵巻」の発見の経緯について、北原が同絵巻の内容および作者について説明を行った。パネリスト講演では、まず井出氏が、画家・柳瀬正夢にとって、震災が与えた影響は決定的なものであり、震災後、作品は漫画が中心となり、昭和初期には日本を代表する左翼漫画家になっていたことを指摘した。片倉氏は、自身が主催する漫画資料室 MORI の所蔵資料を紹介しつつ、竹久夢二や麻生豊、宮武外骨らが、震災後の流言飛語や逮捕・虐殺事件などに批判的な姿勢をとっており、作品を通じて庶民の生き抜く強さ、したたかさを伝えようとしたことを指摘した。新井氏は、東京都慰霊堂に保管されている小学生が描いた震災体験の絵を分析することで、朝鮮人虐殺が当時子どもたちにどのように受け止められていたかを説明した。また、虐殺の様子が克明に描かれている挿絵画家の河目悌二の水彩画を紹介し、現場を目撃した河目が歴史的な出来事として刻印しておく必要があることを強く意識していたのではないかとした。及部氏は、阪神・淡路大震災後の神戸市長田区真野地区で行われた「布絵づくり」について説明し、今回、関東大震災を描いたさまざまな展示物から感じたことを布絵で表現することで、震災の被害や復興をより深く理解できることを指摘した。ディスカッションは残念ながら台風のため中止となった。

3. 公開展示「関東大震災を描く——絵巻・漫画・子どもの絵——」

期間：2010年10月22日（金）～11月1日（月）

会場：神奈川大学横浜キャンパス常民参考室（3号館1階）

4. 公開ワークショップ「関東大震災の布絵づくり」

日時：2010年10月31日（日）10：30～17：00

会場：神奈川大学横浜キャンパス常民参考室（3号館1階）

【内容】

「描かれた関東大震災」をテーマに、東京都慰霊堂の資料調査を契機に所在が確認された、「震災絵巻」（萱原白洞「東都大震災過眼録」全三巻）を中心に、漫画資料室 MORI 所蔵の新聞・雑誌類

に掲載された関東大震災を描いた漫画、東京都慰霊堂所蔵の小学生の絵（パネル）、震災写真（パネル）、阪神・淡路大震災時の布絵などを展示した。その他に、観覧者が「震災絵巻」を手にとってじっくり眺められるように小型の複製品を展示場内に設置し、自由にみることが出来るようにしたほか、常時、本願寺の救助活動の映像をDVDで上映した。また、観覧者が展示物から感じたことを布絵で表現することで、震災の被害や復興、描いた人の意図をより深く理解する「布絵づくり」ワークショップを開催した。

※特別展：入館者数 342 人 アンケート回答者 68 人（10 代 7 人、20 代 17 人、30 代 9 人、40 代 6 人、50 代 7 人、60 代 13 人、70 代以上 9 人。居住地：横浜 32 人、東京 8 人、その他 27 人、不明 1 人）

※公開研究会：参加者 37 人

※「布絵づくり」ワークショップ：参加者 12 人

5. データベース「関東大震災復興データベース」

本年度は、改築小学校の一部、復興公園、街路事業のデータを追加した。改築小学校、復興公園については、HP から解説および各種データの一覧を確認できるようにし、所在地情報および、当時の写真・平面図、現在の写真を閲覧できるようにした。街路事業については、HP に解説を掲載し、位置を確認できるようにした。HP 全体について、各ページのデザインを改善し、より閲覧しやすくした。

6. 研究報告 ※『年報 非文字資料研究』第 7 号（2011 年 3 月）掲載

- ①北原糸子編（2010）『写真集 関東大震災』吉川弘文館。
- ②北原糸子（2011）「東京市政調査会作成の関東大震災避難者カードについて」『京都歴史災害研究』12 号。
- ③北原糸子（2011）「関東大震災における地方への避難民」『災害復興研究』3 号。
- ④北原糸子（2011）「関東大震災の義捐金について」『年報 非文字資料研究』第 7 号。
- ⑤高野宏康「東京都慰霊堂保管資料の整理と分類方法—— 関東大震災および「東京大空襲」関係資料について——」

7. 調査成果報告会「よみがえる『慰霊と復興』の記憶—— 東京都慰霊堂資料の紹介&講演・ライブ演奏会——」

主 催：関東大震災資料調査会

後 援：東京都慰霊協会、神奈川大学非文字資料研究センター

協 力：岡建工事株式会社

会 場：東京都慰霊堂

日 時：2011 年 3 月 26 日（土）13：00～16：00

講演会：①高野宏康（非文字資料研究センター 研究協力者）

「慰霊堂の震災・戦災資料の現状」

②村松祐美（修復研究所 21）

「慰霊堂資料の修復について」

③原山浩介（国立歴史民俗博物館 助教）

「『関東大震災』をどう展示するか」

見学会：復興記念館

ライブ演奏会：優しくして♪, Katyusha

【内容】

これまでの3年間の東京都慰霊堂資料調査の成果を、慰霊堂関係者、地域住民をはじめとする、一般市民に公表することを目的としたイベント。慰霊堂の資料についての講演会に加え、復興記念館の見学会、「震災絵巻」をはじめとする収蔵庫資料の一部を展示する展覧会を実施し、「慰霊と復興」をテーマにライブ演奏会を開催する予定であったが、東日本大震災の影響により、中止となった。

8. その他

本研究班の成果について、他団体主催のシンポジウム・研究会で以下の報告を行った。

- ①高野宏康「『震災の記憶』の変遷と展示——復興記念館および東京都慰霊堂収蔵・関東大震災関係資料を中心に——」, 首都圏形成史研究会第77回例会, シンポジウム「『関東大震災』研究の新潮流——文理融合を目指して——」, 於：神奈川県立歴史博物館, 2010年4月24日.
- ②高野宏康「関東大震災関係資料・展示の現状と課題——復興記念館および東京都慰霊堂を中心に——」, 京都歴史災害史料研究会第6回研究会, 於：立命館大学歴史都市防災研究センター, 2010年5月7日.
- ③高野宏康「関東大震災後の復興小学校と防災意識——災害文化をめぐる東西比較研究の視点からの考察——」, 京都歴史災害研究会, 於：立命館大学歴史都市防災研究センター, 2010年7月16日.
- ④高野宏康「関東大震災をめぐる歴史意識と展示」, 近代史サマーセミナー, 於：国立歴史民俗博物館, 2010年9月3日.
- ⑤高野宏康「地域の中の小学校と災害復興」, 第一回中央区の美しいまちづくり勉強会——歴史的建造物の保存活用を考える, 於：月島区民会館大会議室, 2010年12月20日.
- ⑥高野宏康「『震災』と『戦災』の記憶の関係性——東京都慰霊堂・復興記念館資料調査の成果から——」, 於：東京大空襲・戦災資料センター, 2011年1月27日.

まとめ

最後に、これまで3年間にわたって進めてきた個別共同研究の成果をまとめておく。

震災後の都市復興過程における都市計画（帝都復興事業）による都市景観の変容については、「関東大震災 地図と写真のデータベース」の基本データに、復興関連のデータ（街路、復興小学校、復興公園）を追加して「関東大震災復興データベース」として新たに構築することで、地図上で視覚的

に把握することが可能となった。また、地図と写真のデータベースを補足する情報として解説（「帝都復興事業」、各事業について）を HP 上に掲載し、より内容を充実させることができた。

震災関連の資料調査を実施した東京都慰霊堂については、資料の調査・整理にとどまらず、2009 年度からは朝日新聞文化財団文化財保護助成事業に採択されたことにより、保存・公開までをふくめた事業とすることができるようになったため、当初の予想を上回る成果をあげることができた。具体的な成果としては、収蔵庫および復興記念館の資料リストの作成、マイクロ化（震災特集雑誌など 43 点、復興記念館の文献資料 67 点）、デジタル化（図表 60 点、絵画 20 点、萱原黄丘「東都大震災過眼録 巻之三」）などである。震災後の慰霊と展示の変容過程については、復興をめぐる社会意識との関連から分析することで、近代的・合理的な都市計画による復興だけでなく、戦時期にまで繋がる「モダン文化」批判の精神が複雑に絡まり合っている様相が確認できた。

本研究班が中心となって実施した公開研究会は、いずれも震災復興期について研究が進んでいる都市計画、建築史、美術史などの諸学問分野の研究者を招聘した学際的な内容となった。異分野の研究者が対話することによって刺激的な議論が展開しただけでなく、個別に説明されがちであった震災復興について、総合的に分析する方向性を示すことができたことは大きな成果であった。一方、それぞれの学問分野で資料の扱い方や解釈の違い、問題意識、用語・概念などに違いが浮き彫りになり、それぞれの共通点・相違点を明確にして、諸分野の長所を吸収していけるような工夫が必要となることを痛感させられた。また、他団体の主催するシンポジウム・研究会への参加により、関西方面の研究者との学問的な交流を実現できたことも成果として挙げておきたい。阪神・淡路大震災および、京都の番組小学校の事例との比較研究は、災害文化の東西比較研究として大きな可能性を持っていると思われる。今後とも継続していくことが必要である。

公開展示とワークショップについては、「震災絵巻」を借用させていただいた萱原家のご厚意に加え、武蔵野美術大学の及部克人氏および漫画資料室 MORI の片倉義夫氏らの協力を得たことにより、当初の構想以上の充実した内容となった。従来、関東大震災の絵画についての展覧会は何度か開催されてきたが、狭義の「絵画」（洋画、日本画など）ではなく、絵巻、漫画、子どもの絵という多様なジャンルで描かれた関東大震災の「絵画」を一同に展示できたことは、非文字資料によって歴史や社会を読み解いていく上で重要であると思われる。さらに、ワークショップでは、展示物から感じたことを布絵で表現することで、震災の被害や復興、描いた人の意図をより深く理解することができ、これまでの歴史系の展示ではほとんどみられなかった新たな試みとして画期的といえよう。

本研究班が研究を進めてきたことで明らかになったのは、関東大震災の復興過程についての研究はまだ始まったばかりであるということである。本研究班の成果をもとに、今後とも諸学問分野の協力により総合的に研究を発展させていく必要があるといえる。

関連文献

北原糸子（2008）「関東大震災の都市復興過程とそのデータベース化、並びに資料収集」『News Letter 非文字資料研究』No. 20, 2008 年 9 月。

北原糸子（2009）「関東大震災罹災者バラックとその入居者について」『年報 非文字資料研究』第 5 号。

北原糸子（2010）「描かれた関東大震災——絵巻・版画・素描——」『年報 非文字資料研究』第 6 号。

北原糸子編（2010）『写真集 関東大震災』吉川弘文館。

北原糸子（2011）「東京市政調査会作成の関東大震災避難者カードについて」『京都歴史災害研究』12号。

北原糸子（2011）「関東大震災における地方への避難民」『災害復興研究』3号。

北原糸子（2011）「関東大震災の義捐金について」『年報 非文字資料研究』第7号。

高野宏康（2009）「東京都慰霊堂収蔵庫保管・関東大震災関係資料について」『年報 非文字資料研究』第5号。

高野宏康（2010）「『震災の記憶』の変遷と展示——復興記念館および東京都慰霊堂収蔵・関東大震災関係資料を中心に——」『年報 非文字資料研究』第6号。

高野宏康（2011）「東京都慰霊堂保管資料の整理と分類方法——関東大震災および「東京大空襲」関係資料について——」『年報 非文字資料研究』第7号。

田中傑（2009）「関東大震災後の罹災者バラックと三井諸会社による活動の位置づけ」『年報 非文字資料研究』第5号。

「第2回公開研究会報告 江戸学とビジュアルカルチャー——異文化・美術・歴史——」『News Letter 非文字資料研究』No. 21, 2009年3月。

「第3回公開研究会報告 震災復興と文化変容——関東大震災後の横浜・東京——」『News Letter 非文字資料研究』No. 22, 2009年7月。

「第1回・第3回公開研究会報告 震災復興期における都市の文化変容——モダン文化の諸相と震災の記憶——よみがえる都市景観——震災復興期の「都市美」運動——」『News Letter 非文字資料研究』No. 23, 2010年1月。

「2010年度非文字資料研究センター 第1回公開研究会報告 関東大震災を描く——絵巻・漫画・子どもの絵——」『News Letter 非文字資料研究』No. 25, 2011年1月。

「2010年度非文字資料研究センター 第1回公開展示および公開ワークショップ 公開展示『関東大震災を描く——絵巻・漫画・子どもの絵——』公開ワークショップ『関東大震災の布絵づくり』」『News Letter 非文字資料研究』No. 25, 2011年1月。

「関東大震災復興データベース」

<http://kantoquake.kanagawa-u.ac.jp/pmapf/index.html>

（北原糸子／高野宏康）